

視察報告書

委員会名	建設産業常任委員会
視察日時	令和元年11月8日(金) 10時00分 ~ 11時30分
視察先	新潟県三条市
視察項目	商工業活性化事業について
視察参加議員	小島忠義、寺崎強、松月よし子、徳安達成、柳明夫、平田雅紹
<p>視察概要</p> <p>【三条市の状況】</p> <p>人口98,099人、面積431.97km²、平成17年に旧三条市、旧栄町、旧下田村が合併し誕生した。</p> <p>隣接する燕市とともに「燕三条」としてものづくりが強みの地域として知られている。製造業に関しては、事業所数607事業、従業者数13,263人、製造品出荷額等2801億2867万円(H28工業統計調査)。</p> <p>高度経済成長期には量産化技術によって成長し、バブル崩壊後は技術の高度化、素材の広範化により価格競争力を強化してきた。しかし、平成20年のリーマンショックの落ち込みにより、大量生産型のものづくりを脱却し、製品に優位性を出し価格決定力を確保することに主眼を置くなど、外部環境に左右されにくい産業構造の構築に向けて政策を転換していくこととなった。</p> <p>【三条市の政策】</p> <p>○三条市総合計画</p> <p>リーマンショック以降、国が多くの雇用助成金を用意した。その助成金をうまく活用しながら、外部環境に左右されにくい産業構造の転換を目的として、①売れるもの・しくみづくり支援事業補助金、②成長産業進出支援事業補助金、③次世代産業創造プロジェクト事業という三本柱事業を行ってきた。その成果として、ヤマサの醤油に使われている逆止弁(株式会社悠芯)、電池用セパレータとしてフィルムシートを開発した板垣金属株式会社等がある。こうした成果や経験をもとに、平成27年から8年間の三条市総合計画に「ニッチトップを目指す」産業振興が記されている。</p> <p>○政策、施策の展開</p> <p>三条市も人口減少に対する強い意識を持っており、産業振興の課題を解決することで市民生活の向上、転入人口の増加を基本大綱に示している。市民生活の向上のためには①価格決定力の確保(ライフワーク)と②経営基盤の存続(ライスワーク)を進めている。雇用の確保、生活水準の担保により、シティセールス、転入促進へとつなげている。</p> <p>①価格決定力確保のための事業</p> <ul style="list-style-type: none">・コト、ミチ人材活用事業(一貫支援でブランドを構築) <p>経営から製品開発コンサルティング支援を(株)中川政七商店の代表中川淳氏へ、</p>	

販路開拓支援を（株）メソッド代表山田遊氏へ依頼することで企業の成長を後押しする事業（雇用助成なども行う）

②経営基盤存続のための事業（部品加工系の企業のすり合わせ）

- ・先駆的分野進出支援事業
- ・リアル開発ラボ事業

ダイハツコペンのカーゴトレーラーの作成など、企業から依頼を受け、三条市の企業が技術のすり合わせ、部品加工会社の協力で新たな分野の商品開発を行っている。また、その技術を展開し、バイク用のトレーラーを創造するなど新事業の創出にチャレンジしている。

- ・ニッチ分野進出支援事業

新潟県立大学の細谷教授と連携した企業支援を行っている。

ニッチトップになっている会社への支援、他と差別化するための戦略を考える講座、会社の強みを見つけるべき経営者が研究会に参加している。

- ・起業、創業支援～三条アクセラレータープログラム～

全国からアイデアをもつ若者を受け入れようとしている。三条出身者からの提案が3～4名に対して、首都圏から提案に来た方が20名。様々なアイデアを地域の技術者や企業とつなぐことでイノベーションを起こそうとする事業。

- ・新規鍛冶人材育成・地場産業技術承継事業（親方の高齢化）

伝統的な地盤産業を守るため、新規鍛冶人材、または研磨技術など地場企業に求められている人材を雇用する場合に月15万円の補助を支出している。全国から技術者になりたいという若者を受け入れている事業。

- ・燕三条 工場の祭典

普段閉じている工場を一斉に開放し、ものづくりのプロセスや工場の様子なども魅力を感じてもらおう。今年は5万人を超える来場があった。

- ・三条技能創造大学の創設

工学知識と技術、想像力、テクノロジマネジメント能力を備えた人材を育成。

令和3年4月開学予定。

意見（本市にとって活用すべき事項・課題など）

三条市経済部商工課の担当者から大変詳しく熱意あるご説明をいただいた。特に様々な地場産業、地域の企業の特色や製品を非常に詳しく理解されていた。すごいと思った。また、三条市は地方創生交付金の活用や、担当職員数の増員、事業費、旅費等をH20年から27年にかけて13倍にしており、本気度が違った。

糸島市においては、日本全国やグローバルに展開する企業が少ないなかで、三条市のように地場企業の強みを発見するための施策展開もあっていいのではないかと思います。また、事業者間のつながりを持たせ、新たな分野の事業の創出についても必要だと思う。がんばる中小企業応援補助金をさらに発展した補助など検討できるのではないかと期待する。糸島市の企業、事業者の課題の解決によって、市の産業が活性化するよう努めていただきたい。

